

請願書の採択

●高規格幹線道路に佐賀北部地域と佐賀との間で利用できる一般道路を結ぶ出入口の設置に関する請願書



紹介議員
藤本 岩義

趣旨 この高規格幹線道路は、佐賀地域の災害時の避難場所である拳ノ川地域への避難路として、また、佐賀や四万十市への生活道として極めて重要な位置づけとなっている。

このため、佐賀北部地域から同道路の下り線を日常的に利用できる一般道路と結ぶ出入口の設置を強く請願する。

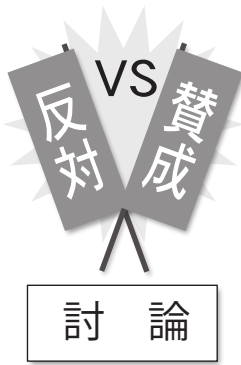
なお、この請願は、先の3月議会において継続審査とされていたもの。採択(多数)

Q 坂本あや議員

事前に県に検討内容などを伺ったとのことだが、その内容は。また、要望を事業主体の国交省ではなく県知事に出す理由は。

A 藤本 岩義 産業建設厚生 常任委員長

現在、県では当町からの要望により、県単独の事業も含め調査研究中とのことだった。要望先については、国の事業では非常に難しいとのことと、県が検討中であることを受け、住民からの思いを県に上げるべきとした。



反対 坂本あや議員



本町が、今一番しななければならないことは、

この地域に高速道路を一日も早くつづけることだ。その状況下、こういう要望を当町から出すことは、これからの事業の進ちょくに大きな影響があると思われる。

また、地域活性化インターは高速道路の完成後、その利用状況に合わせて各地方自治

体が設置するものなので、現時点での要望は時期早尚だと思いい、反対する。

賛成 矢野昭三議員



拳ノ川は、地震津波時の佐賀地域の避難所になるなど、防災拠点の位置付けがされているが、現56号、あの山間部を震度7が来たらほとんど通れなくなる。その上、この地の現状から考えると、復旧は最後になる可能性が高く、それを回避したい。

また、この佐賀北部からのさまざまな願いを今一度思いおこすと共に、数度に渡り文書を出して行動する町民の切なる願いを町民の代弁者の議員が理解し、趣旨に賛同して頂きたく賛成討論する。

賛成 小松孝年議員



道路には地域の活性化や利便性などがあって

こそ道と考えている。この高規格道路は、約20年前から要望しており、署名活

拳ノ川地区で進む高規格幹線道路の上りインターチェンジ関連工事(左と下、7月2日)



賛成 中島一郎議員



この件は、町から要望が出され、県からは設置の実現性等の検討をするとの回答があった。また、当町議会に県に出向いて概要や経過の説明を受ける中、難題もあるが、頭から設置不可能ではないという認識を持っている。

高知自動車道の延伸が急ピッチで進むこの時期にこそ、佐賀北部地域と佐賀地域の日常生活の不便解消や地域の活性化、南海トラフ地震への防災対策を鑑み、賛成する。

